

■効果の見える治水事業

香川県 円命寺川（三豊市詫間町）の砂防事業

香川県西讃土木事務所長 川江 秀樹



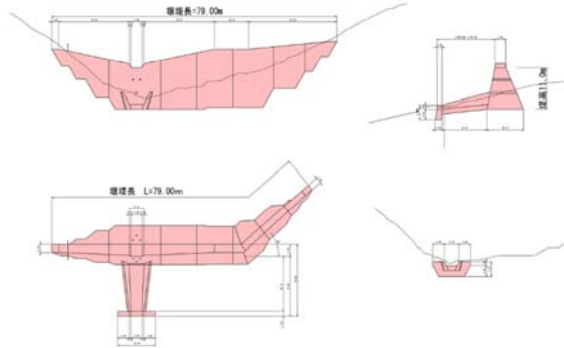
■事業箇所 三豊市詫間町

■事業期間 平成 21 年度～平成 27 年度

■全体事業費 310 百万円

■事業計画

1. 砂防堰堤 1 基
2. 堤高 $H=11.0\text{m}$
3. 堤頂長 $L=79.0\text{m}$
4. 堤体積 $V=4,210\text{m}^3$
5. 溪流保全工 $L=296.0\text{m}$
6. 貯砂量 $V_s=5,646\text{m}^3$
7. 流域面積 $A=0.13\text{km}^2$



本溪流は、三豊市詫間町大浜に位置し、紫雲出山山頂付近に源を發し、瀬戸内海に流れ込む流域面積 0.13km^2 で平均河床勾配 $1/5$ の土石流危険溪流です。下流域には保全対象として人家 73 戸、寺院、耕地 1.3ha に加え、荘内半島を循環する県道大浜仁尾線があり、土石流により被災した際には他の代替道路がないため住民の避難も困難になります。

当流域の地質は、風化花崗岩であることから、表層の風化が進み、降雨のたびに溪流内の至る所で崩壊を起こしており、住民の方々から一刻も早い土石流対策の要望を受けておりました。

この様な状況に鑑み、土石災害の発生を未然に防止し、住民の生命、財産を守るための砂防堰堤の建設を計画し、平成 21 年度に事業着手し、地元住民の皆様のご協力のもと平成 28 年 2 月に完成しました。



完成したえん堤



堰堤より下流の溪流保全工

■談話室「香川県三豊市」 「新しい三豊市の仕組みづくり」

三豊市長 横山 忠始



三豊市は、平成の大合併により、平成 18 年 1 月 1 日に旧三豊郡の高瀬町、山本町、三野町、豊中町、詫間町、仁尾町及び財田町の 7 町が合併し誕生した新しいまちです。本市は香川県の西部に位置し、市の北西部には燧灘・備讃瀬戸をのぞむ美しい海岸線、中央部には財田川や高瀬川などの河川が流れ、豊かな田園空間が広がる三豊平野、南東部には緑輝く讃岐山脈など、海から山まで多彩で特色ある自然環境・景観を誇る田園都市です。

新たな本市のまちづくりにおいては、「自主・自立」を基本に、市民・市民組織・民間企業・行政が、生み出される市民力を高め生かすことにより、本市ならではの特性や資源を磨き上げ、三豊市型の“豊かさ”を自らの手で生み出し、発信し、西讃地域の顔となるまちを創り上げていくことが重要と考えています。そのため市民との協働体制の確立と地域内分権を進めながら、本市ならではの新たな“豊かさ”を常に創造・発信するまちづくりを目指しています。

さて、本市は香川県で 2 番目に大きく多様な土地を有しており、これまで何度も各地で土砂災害を経験しています。本件の詫間町大浜地区においても、平成 13 年に土砂災害が発生し被害を受けました。こうした中で、昨今の広島土砂災害、熊本や東日本での大震災等、歴史的な大規模災害の発生もあり、近い将来に起こると言われる南海トラフ巨大地震に備え市民の防災意識も年々高まっており、自主防災組織の確立、地域ごとの防災訓練等、各地で災害に備えた取り組みが動き出しています。災害が同時に多発した場合は、まず「自分たちの地域は自分たちで守る！」という心構えが大切です。「自助」「共助」「公助」とありますが、自助・共助の部分、自分たちの地域で活動する自主防災組織。ここが重要な第一堤防だと考えています。また、公助の部分において、ハード施設の代表的なものが今回整備していただいた砂防施設であり、大変ありがたい限りです。本市としても「地域防災力の強化で減災の実現」をテーマに防災マップの作成及び三豊市地域防災計画の策定、防災行政無線の整備等、防災体制づくりを進めてきました。また、今年 1 月に危機管理センターを稼働し、災害時における速やかな初動体制を確立しました。今後も「自助」「共助」「公助」この補完性の原則のもと、市民・市民組織・民間企業・行政による「新しい三豊の仕組み」を確立し、「自主・自立」の三豊市づくりを進めていきます。



▲完成した危機管理センター